

**授業概要**

絵画造形表現を実践的に学ぶ。実際に保育場面で活用できるさまざまな実践を通じて、いろいろな材料、技術を体験する。

自己の造形感覚を触発しつつ、子供たちの成長によりそい、自由な表現をサポートするために、保育者としての適切な指導のあり方を考えるように指導する。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション
第2回	自分の中の子どもと出会う。（色の記憶から）
第3回	造形あそびとその発展的实践 ①点、線、面
第4回	造形あそびとその発展的实践 ②紙立体
第5回	造形あそびとその発展的实践 ③描画材料
第6回	造形あそびとその発展的实践 ④色彩材料
第7回	紙の可能性 ①はりこのアニマルハットの製作
第8回	紙の可能性 ②骨組みを作る
第9回	紙の可能性 ③揉み紙を重ねて貼る
第10回	紙の可能性 ④彩色する
第11回	ロープ人形を作る ①軽量粘土で形を作る
第12回	②彩色する
第13回	空想水族館を作る ①図鑑や資料から好きな魚を模写する
第14回	②拡大して絵を描き、色は自由に彩色して切り抜き、糸で吊るす
第15回	作品持ち帰りバッグを作る（かんたんステンシル）
第16回	まとめ 作品返却

**到達目標**

絵画造形表現の基礎的な技法材料について理解を深め、自身も創造的で自由な表現を楽しむことができる。自他ともに表現から学びあい、柔軟で適切な指導や援助につなげていけること。

**履修上の注意**

必要な画材、用具を用意するため、教材費1000円を集金する。  
各自水彩絵の具一式のみ用意すること。

**予習・復習**

基本的には授業時間内での作業とする。事前にアイデアを考える、または遅れた作業を挽回するなどの指示をすることがある。

**評価方法**

制作に取り組む姿勢、提出作品の完成度と内容、準備、後片づけを含めた総合評価。  
課題作品60%、平常点20%、まとめレポート20%。

**テキスト**

特になし。適宜資料を配布する。